

～クイズ～

1. 桂太郎の内閣総理大臣通算在籍日数は何日でしょう？

- ① 2913日
- ② 2886日
- ③ 2769日

2. 桂太郎は、何回結婚したでしょう？

- ① 2回
- ② 3回
- ③ 6回

3. 桂太郎は、どこに留学したでしょう？

- ① ドイツ
- ② イギリス
- ③ オーストラリア

4. 桂太郎は、何のガンで亡くなったでしょう？

- ① すい臓ガン
- ② 肺ガン
- ③ 胃ガン

5. 芝山巖学堂には日本人の先生が何人いたでしょう？

- ① 3人
- ② 10人
- ③ 7人



近くの藍場川では、きれいな鯉がたくさん泳いでいます！

所在地



桂太郎旧宅

～激動の明治時代を生き抜いた男～



桂太郎（かつらたろう）

- ・弘化4年（1847）11月28日生誕、大正2年（1913）10月10日数え年66歳の時、ガンで病死。
- ・通算12年間総理大臣を務めた。
- ・日清・日露戦争終結に向け、水面下で動き、現在の日赤病院や済生会病院の事業に携わる。
- ・1895年7月、台湾に芝山巖学堂（小学校）を設立。芝山巖学堂は、「台湾の松下村塾」と呼ばれていた。
- ・1896年6月より台湾総督府で約半年ほど総督を務める。
- ・1900年、拓殖大学を設立。
- ・山縣有朋と仲が悪かったそう。
- ・児玉源太郎・小村寿太郎とともに、「明治の三太郎」と呼ばれており、人望も厚かった。
- ・激動の明治時代を乗り越えてきた人物。

・廊下ですれ違った時や会合の席などで、ニコッと笑ってボンッと肩をたたいたから「ニコボン総理」と呼ばれていた。

・誰にでも気安く声をかける人だったが、人気取りのために様々な人に声をかけていた、という一面もあったそう。

・済生会病院に献体を申し入れ、帝国大学（現在の東京大学）で解剖される。遺伝子や脳の病気、認知症の解明に役立つ。

・また、毛利家と桂家の先祖は親戚関係だったので桂家の家柄は良く、「ボンボン」と呼ばれていた。

桂太郎に関係すること

・土地を売って東京に行きドイツに留学した。その際に、弟の次郎と一緒に留学する。次郎は本場のビールに感動し、日本に帰国したときに浅田麦酒会社と共同で、日本人の口に合うビールを恵比寿で作る。現在のエビスビールとなっている。

・桂太郎の子孫は、桂製薬という会社を経営しており、戦争で使う薬品を作っていた。

・桂太郎旧宅にある銅像は、拓殖大学設立100周年を記念したもので、拓殖大学東京キャンパスにあるものと同じものが作られた。



水琴窟（すいきんくつ）

・平成11年にできたもの。手洗い場として使われ、石の器の^{ちようずばち}ことを手水鉢という。

・手水鉢の下は空洞になっており、水が落ちると音が鳴る仕組みになっている。

・石は、近くの笠山が噴火した際の石を使用。

きれいな音が鳴るので、ぜひ体験してみてください！

答え 1. ② 2. ② 3. ① 4. ③ 5. ③